

# I 自然環境 Natürliche Umweltbedingungen

## 1. 位置 Lage

植生調査地域は本州最北端に位置する青森県下北半島の大間町を中心とする半径 30km 圏内にある。この 30km 圏内には大間町に隣接する青森県下北郡の佐井村，風間浦村，大畑町，川内町およびむつ市のほか北海道亀田半島部の函館市，亀田郡戸井町，同尻岸内町の各地区が含まれる。

## 2. 気候 Klima

### 1) 下北半島 Shimokita-Halbinsel

本州の北端に位置している青森県は，奥羽山脈が県南で海拔高度を減じ中部以北では，冬は季節風が吹き抜けて降雪をもたらす日本海岸気候に属している。また下北半島北部では夏にオホーツク海高気圧から吹きだす東風（やませ）が吹き抜けるので低温となることもしばしばあるが，

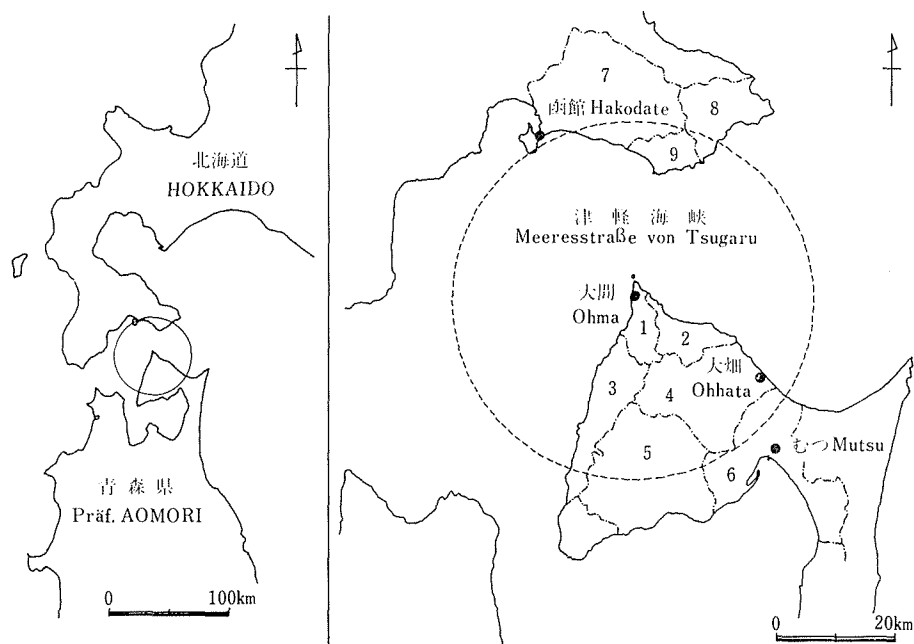


Fig. 1. 調査地域位置図 (30km 圏)。1: 青森県下北郡大間町, 2: 風間浦村, 3: 佐井村, 4: 大畑町, 5: 川内町, 6: むつ市, 7: 北海道函館市, 8: 亀田郡尻岸内町, 9: 戸井町。

Lage des Untersuchungsgebietes (mit einem Radius von 30km), 1: Ohma-machi, 2: Kazamaura-mura, 3: Sai-mura, 4: Ohhata-machi, 5: Kawauchi-machi, 6: Stadt Mutsu, 7: Stadt Hakodate, 8: Shirikishinai-cho, 9: Toi-cho.

全般に夏は太平洋岸気候の影響下にある。このように下北半島の気候は半島東部の太平洋側と西部の津軽海峡側とは多少異なるものの、全般に冬は日本海岸気候であって、夏は太平洋気候である（青野・尾留川 1975）。

## 2) 亀田半島 Kameda-Halbinsel

本地域は、気候的には北海道においても比較的温かな渡島半島にあって、さらに冬の最低気温の高い函館地区に位置している。

## 3. 地形・地質 Topographie und Geologie

### 1) 下北半島 Shimokita-Halbinsel

下北半島は山地の占める割合が大きく、これらの山地を取り巻く台地が幅狭く発達しており、低地はむつ市、大畑町付近にわずかにみられるにすぎない。

半島北部の山地は、中央山地からつづく主として第三系からなる下北山地と、その北東に位置する那須火山帯に属する恐山、燧岳の両火山からなる。

下北山地は半島西部において海岸線まで迫り、とくに佐井から南の平館海岬に面した部分は南北方向の断崖海岸となっている。

恐山火山は円山（807m）、大盡山（828m）、屏風山（628m）などを結ぶ山稜を外輪山とする直径約 6 km のほぼ円型のカルデラをもち、その中央にはカルデラ湖の宇曾利山湖が存在する。

燧岳火山は大畑川の北方に位置する第三系の山地の上に、比較的薄く噴出物をのせて形成された成層火山である。最高峰の燧岳は海拔 781m で、山体の傾斜は一般にゆるく、とくに南側の山腹には佐藤ヶ平と呼ばれている典型的な溶岩台地が分布している。

半島北端には典型的な海岸段丘の形成された大間台地がある（青野・尾留川 1975）。

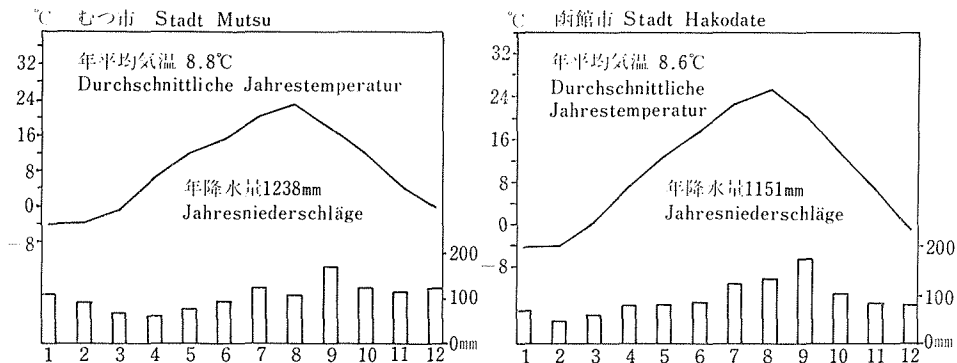


Fig. 2. むつ市および函館市における気温と降水量の年変化（青野・尾留川 1975, 1979より一部変更）。

Jahresverlauf der Temperatur und des Niederschlags in den Städten Mutsu und Hakodate (nach Aono u. Birukawa 1975, 1979, verändert).

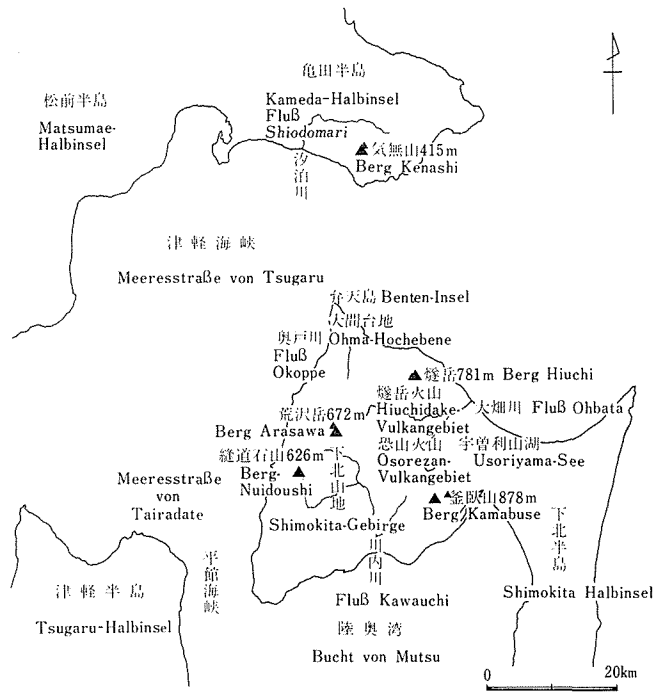


Fig. 3. 津軽海峡周辺地域の地勢図。

Topographische Karte des Gebietes um die Meeresstraße von Tsugaru.



Fig. 4. 下北半島の平館海峡に面して西海岸は断層海岸が発達している (佐井村仏ヶ浦)。

Eine Bruchküstenlinie ist an der West-Küste Shimokita-Halbinsel entwickelt (Hotokegaura, Sai-mura).

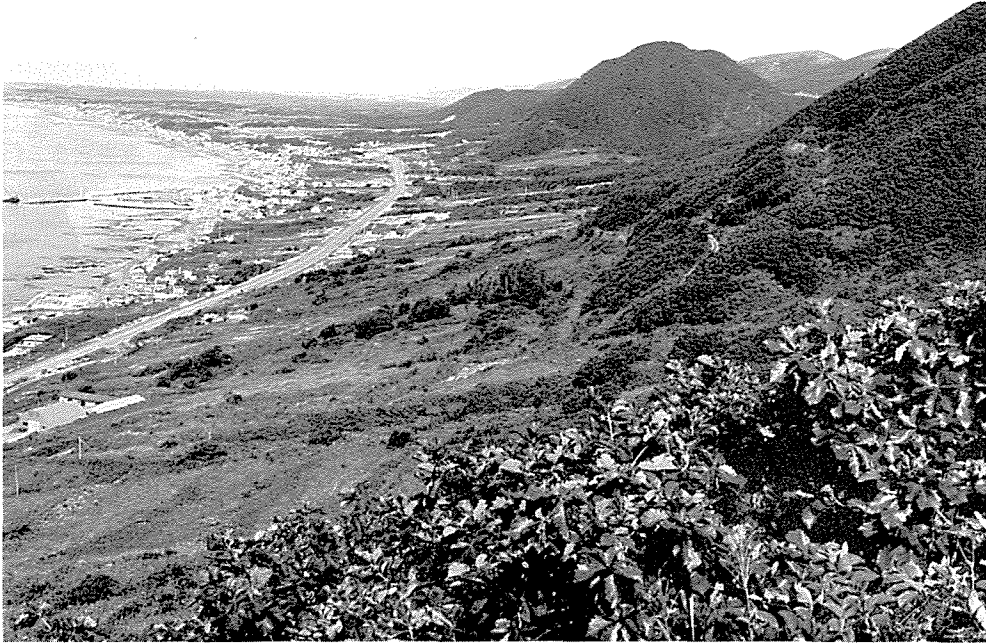


Fig. 5. 汐首岬から函館市を望む。山麓には台地が帯状に形成されている（亀田郡戸井町）。

Küsten-Landschaft des Gebietes des Shiokubi-Kaps (Toi-cho, Kameda-gun).

## 2) 亀田半島 Kameda-Halbinsel

北海道地区で大間広域 30km 圏に入る渡島半島東半の亀田半島は、駒ヶ岳火山群に属する横津岳（1,167m）と恵山（618m）を結ぶ山稜の南側山麓にあたる。

地質的には、厚いグリーンタフを主とした新第三紀層が発達している。また地形的には笹積山（376m）、気無山（415m）など低級な山麓のみられる山地によって占められている。30km 圏内の亀田郡中井町では山地が海岸近くまでせまり、汐首岬、サンタロナカセ岬などでは、安山岩の柱状節理のみられる急峻な海岸線が形成されている。ちなみに、これらの海岸線は恵山道立自然公園に属している。

本地域西部の函館市になると清水山（321m）の南麓に比高20～100mの狭い台地がみられる。小規模であるが汐泊川河に付近では沖積低地が形成されている。

本地域の土壌の大部分は褐色森林土によって占められている。